４（三浦地域）プレゼン発表

【三浦地域の課題（概要）】
【課題解決方法】
【プレゼン資料】／【説明者の発言】

４（三浦地域）プレゼン発表

※詳細は末項「（別表）個別事業一覧」参照願います。

【三浦地域の課題（概要）】
〇高齢化
〇豊富な地域資源(漁業、自然や景観等)を活かし、メディアなどで発信し交流人口や関係人口を増加させたい。

⇒地域情報を発信する市民記者としていきいきと活躍する高齢者を育成し、三浦市を盛り上げる

【課題解決方法】
⇒IT機器初心者もいれば、ITスキルが高く今にもメディアで情報発信できる人もいる。
⇒それぞれのニーズに合った支援が必要

令和４年度　地域の支え合い仕組みづくり事業
中間報告会（令和４年11月８日）

高齢者活躍の仕組みづくり支援分野

Don‘t tell anyone!
地域資源情報を集めて広めて繋がろう大作戦！

三浦市地域資源情報プラットフォーム推進協議会

第１　概要

令和2年10月（事業開始）時点

本事業の目的／内容

○　本事業のきっかけ

- 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、暮らしの中にステイホームなどの制約が課された。
- このことにより、地域活動、市民活動が停滞した。
- 多くの人が引きこもりがちになり先行きの不安に駆られた。

(´Д`)

3

○　本事業のきっかけですが、新型コロナウィルス感染拡大により、多くの人が引きこもりになりました。

本事業の目的／内容

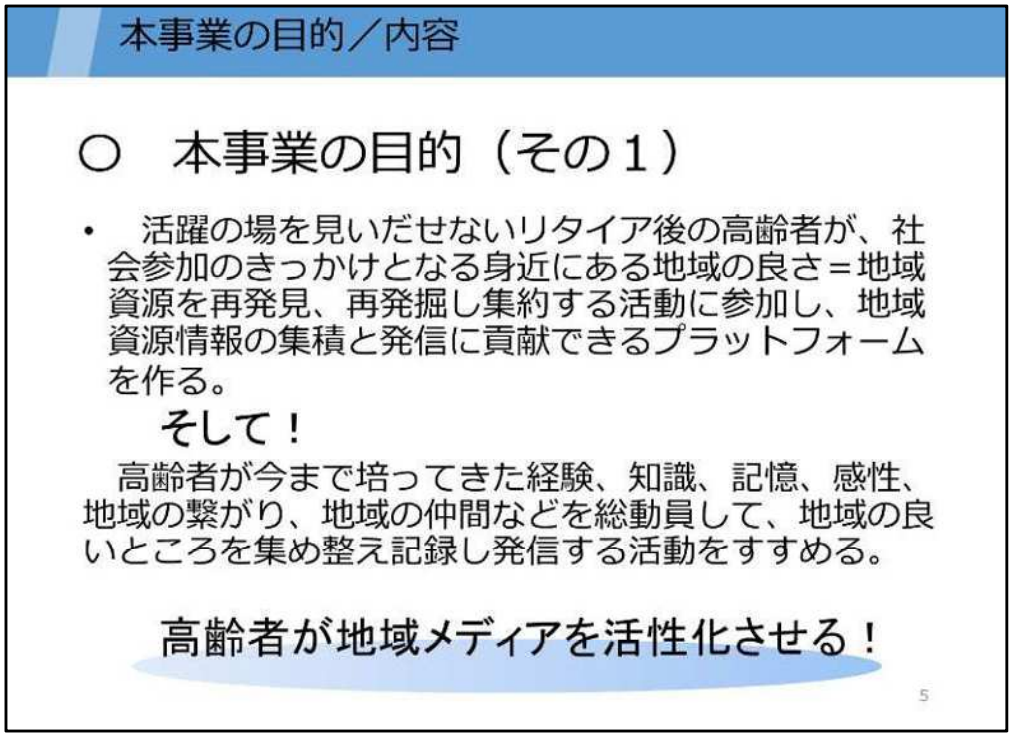
○　本事業のきっかけ

- 反面、身近な暮らしを見つめなおし、懐かしい記憶、身近な散歩コースの美しさ、母が教えてくれた郷土料理などの身近な魅力を再発見した。
- 時間に余裕があり、経験が豊富かつ、現代社会が失ってしまった丁寧な暮らしの記憶があるという高齢世代しか持ち得ていないポテンシャルは価値があるはず。
- これら地域の魅力を少しずつでも集める活動を始めたら停滞ムードも改善できるのでは！

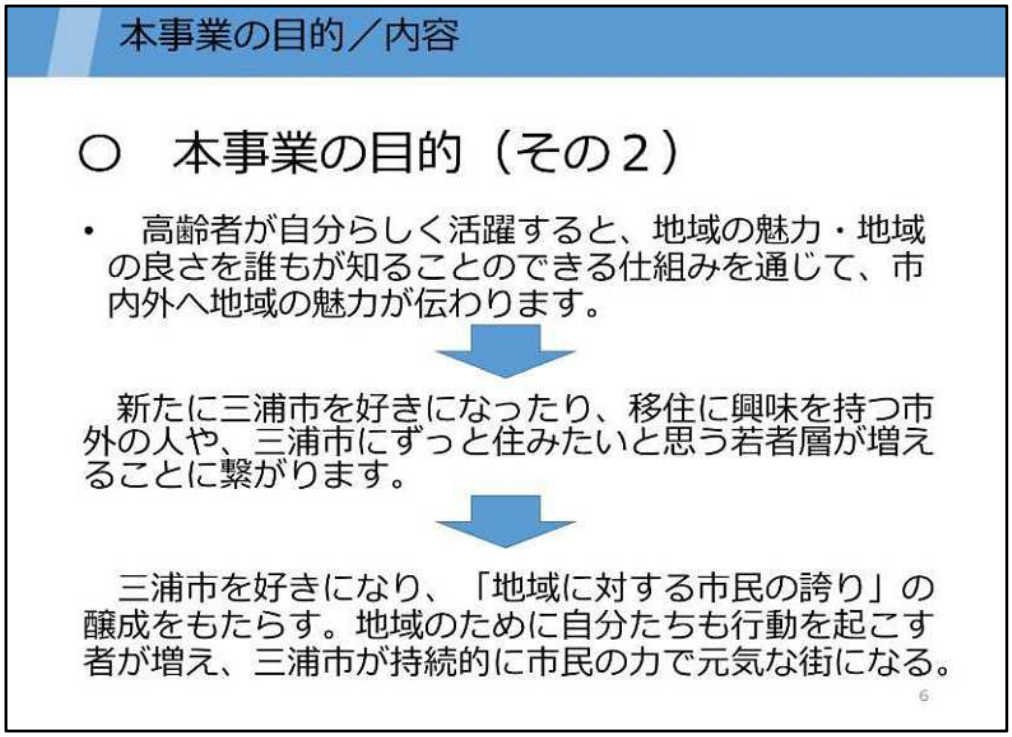
❗ (*’▽’)

4

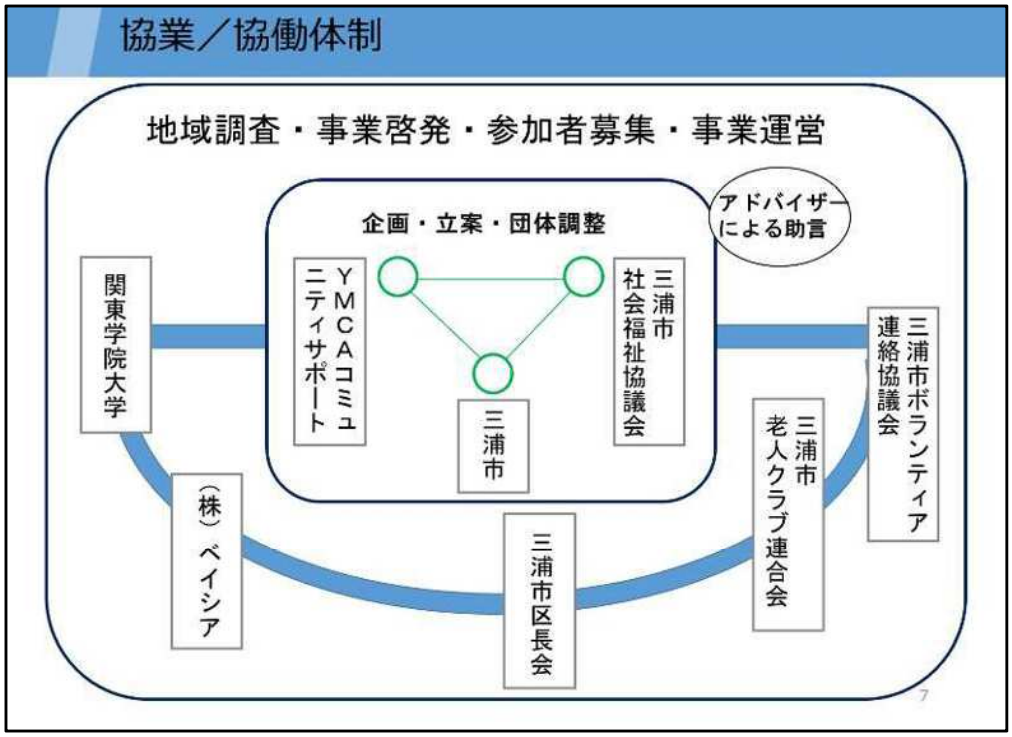
○　反面、ステイホームによって、身近な暮らしを見つめ直す時間ができて、地域の魅力を集める活動を始めるには好機ではないか、という思いがありました。



○　人口4万２千人、高齢化率40%を超える三浦市にあって、リタイアした高齢者の引きこもりを課題として、この世代の特に男性高齢者が地域資源を発見、発掘し、発信する場を作り、高齢者が地域メディアを活性化させることを第一の目的としました。

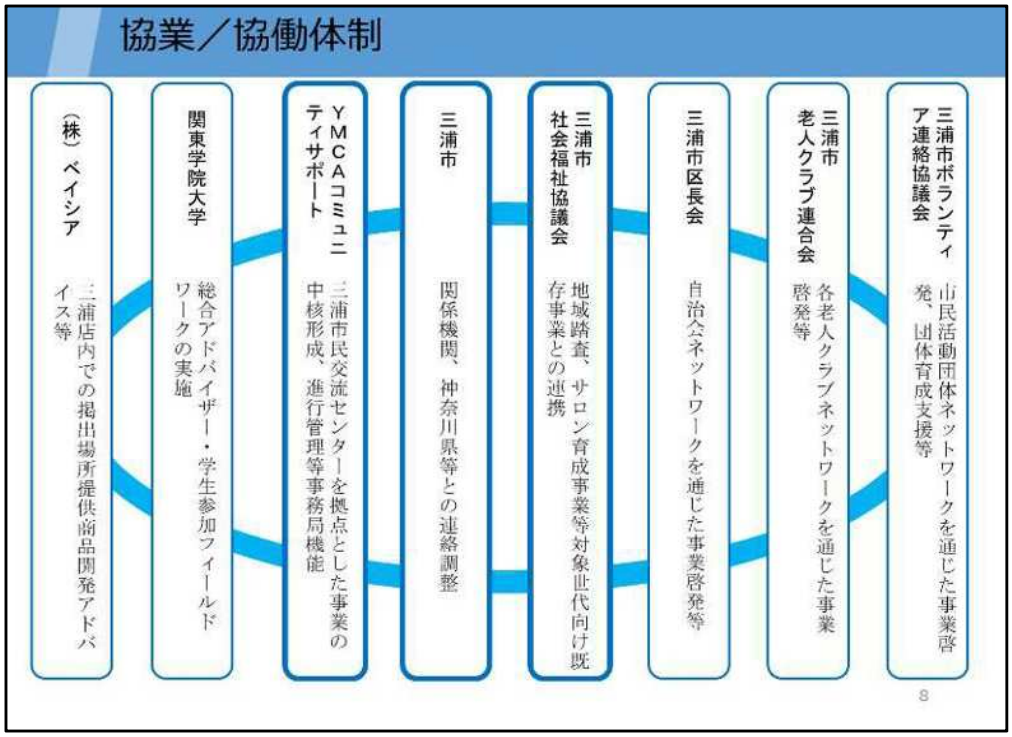


○　第二の目的は、高齢者が活躍していることが地域の魅力となって、世代を超えて三浦のファンが増えて、市民の力で元気なまちになることを目指すということです。



○　本事業のスキームで、三浦市、三浦市社会福祉協議会、三浦市民交流センターの指定管理者であるNPO法人ＹＭＣＡコミュニティサポートの３者が、この事業の企画立案、関係機関の調整役となり、学識経験者や最先端で活動する起業家等のアドバイザーによる助言を受けながら、事業を動かす構想になっています。

　そして、地域調査や啓発、参加者の募集、個々の事業運営については、地域住民組織、大学、企業等の協力を得て実施をしていくことといたしました。



○　それぞれの協力体制８者でスタートしていますが、まずこの太枠にあります企画立案調整役である３者についてです。

○　社会福祉協議会はこの企画の対象である、リタイア後の高齢者世代に対する地域調査や既存事業である高齢者サロン育成事業等の連携を図って事業を進めています。

　三浦市は、市民部市民協働課が市役所内の各部局、神奈川県をはじめとした関係行政機関その他関係団体との連絡調整を担当しています。

　YMCAコミュニティサポートは、三浦市民、運営する三浦市民交流センターと拠点とした事業の進行管理と事務局機能を担っています。

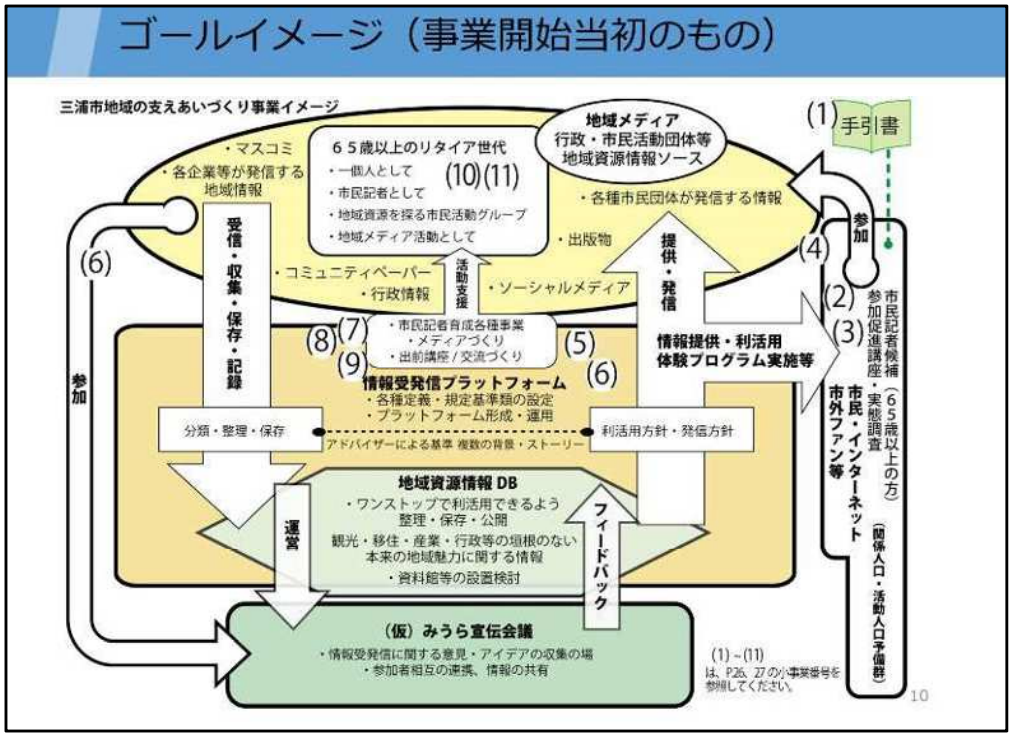
○　表の右側、三浦市ボランティア連絡協議会、老人クラブ連合会、区長会は、地域住民組織です。それぞれの団体のネットワークを通じた事業啓発や、団体支援事業に関わっていただいています。

　株式会社ベイシアは、連携企業ですが、三浦市民交流センターが入居している三浦店の店舗スペースの提供や、食をテーマとした商品開発事業等で連携をしています。

　関東学院大学は、人間共生学の共生デザイン学科の日高ゼミナールが日高准教授による本事業へのアドバイスやゼミの学生によるフィールドワーク、事業企画等に参画をしていただいています。

○　当初のゴールイメージになります。

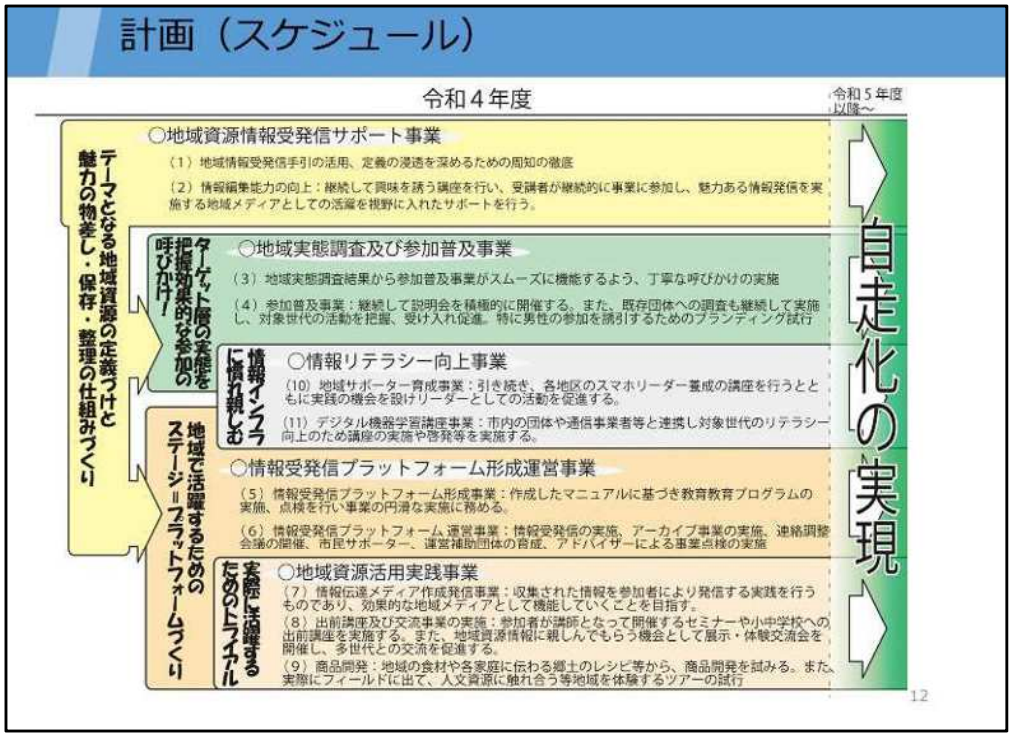
○　本事業は、５つの事業があり、各事業に２、３取組があって、全部で11項目の事業に着手しました。



○　５事業、11の取組がそれぞれに広がりがあるのに、全体として俯瞰し、進行管理をすることの難しさもありますが、個々の取組がうまく機能することによって、最終的には、高齢者が地域メディアを活性化させ、活躍する高齢者がいること自体が三浦の魅力になるという目標に基づいて、さらに続いていく原動力になるイメージを持って始めています。

第２　進捗状況

令和2年10月～令和4年10月



○　続いて進捗状況について報告します。

○　こちらのテーマ、５事業11項目については、個々について報告というよりは、つながっている部分がありますので、プラットフォームの整備事業として、事業１、２、３に当たる(1)、(3)、(4)、(5)、(6)、情報リテラシー、広聴事業として(10)、(11)、プラットフォーム整備、自走化のところで活躍できる仕掛け、市民による情報発信の支援として事業４、(7)、（8）、(9)という形で、まとめて報告をしています。

実績／成果（達成項目、未達成項目など）

○　プラットフォームの整備と活動の展開

- アドバイザーの助言により地域資源情報の定義、活動方法等を紹介した活動初動用ガイドブックの作成活用
- ガイドブックを配布し、多様な投稿の参加の呼びかけを実施。（老人クラブ、区長会、各サロンなど約2000部、講座受講者に配布）
- 説明会の開催（4回開催　延べ24人参加、今後も開催予定）
- 説明会・講座参加者による交流会の開催、新たなグループモデル活動の支援に着手。（仮）部活動支援
- サロン活動、施設等での参加の呼びかけ。（サロン15箇所等）
- 専用ウェブページでの事業の紹介、参加の呼びかけ
- センターによる地域の基本情報、投稿情報の整理・発信。
- 収集保存マニュアルの作成、新たに作成する活用発信マニュアルを活用し支援するスタッフの育成。

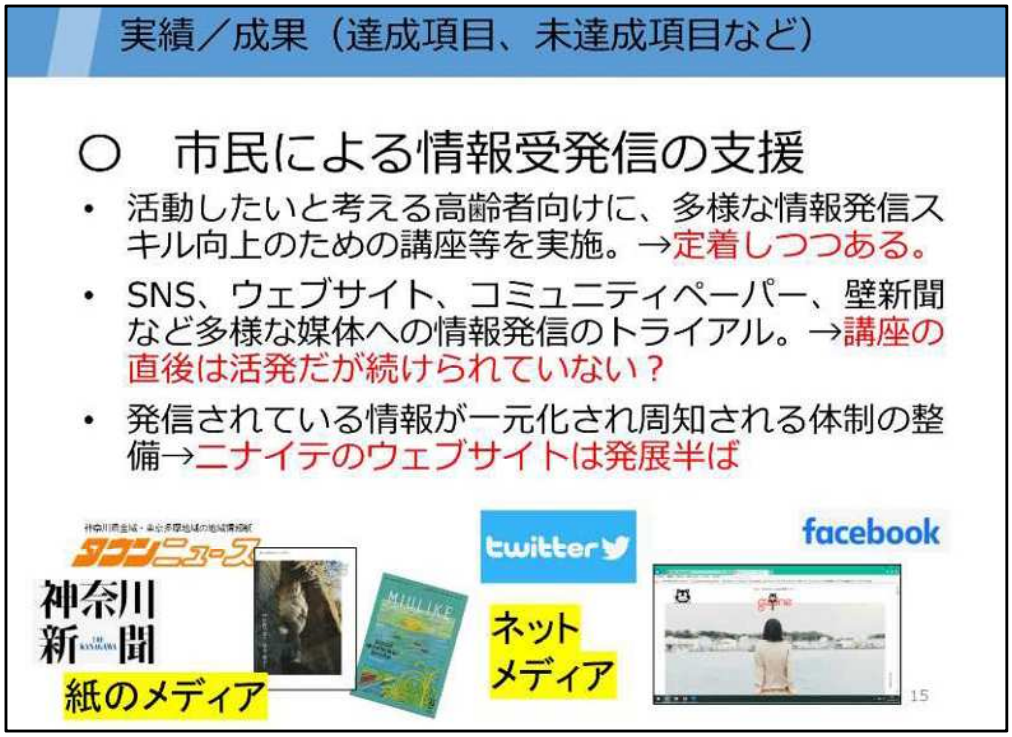
13

○　プラットフォーム整備事業として、まずはアドバイザーからの助言によりハンドブック作成からスタートし、説明会や講座をニナイテカレッジという形で、一元化して開催しました。

　ここでは、地域住民組織である老人クラブ、区長会、サロンなどとの連携が功を奏しました。

○　また、広報誌やパンフレットにより、初めて参加するリタイア世代と新しいつながりができ、参加者同士が「市民の部活動」と呼んでいる新たなグループ形成につながっています。

○　このようにハンドブックを作りまして、そしてグループができ、それからそのグループが市民記者のブログを運営するような形になっています。



○　市民による情報発信としては、ニナイテカレッジとして高齢者向け講座は定着をしています。

○　様々な情報受発信方法で講座を提供していますが、講座が終わると自主的な活動が下火になってしまうという課題を、昨年度の中間報告でもお伝えしています。

実績／成果（達成項目、未達成項目など）

○　市民による情報受発信の支援

- 情報編集能力の向上・情報伝達メディア作成スキルアップを図るため講座群を開催（アナログ系　4回、デジタル系　6回、フィールドワーク系　3回）
- 講座を開催し実践のトライアルを実施する。また、講座後のフォローアップを実施する。
- 市民運営による情報発信サイトの運用開始！
- 発信されている情報や発信者に関する情報はセンターのウェブサイトやセンターたよりへ掲載。
- 幅広く共有されるため「共通＃タグ」などの手法などの利用を呼びかけるとともに発信活動の支援方法を発信活用マニュアルへ掲載し展開中！。
- 受信する、交流会に参加するなど受動的な関わりでも貢献していることを丁寧に伝え地域の繋がりに誘いたい！→実態は把握できないが、、、

16

○　講座の中で実践練習をし、その後フォローアップをして、習得したスキルを定着、発展できるような働きかけによって、いくつかのグループでできたこと、また、発信まではしないけれども受信することで、地域とのつながりを持ち続けるという層もいて、まだまだ把握は難しいのですが、この層も意識してつながることが重要だと感じています。

○　具体的にニナイテカレッジということで、相互に教え合ったり、卒業に向けて実際の取材体験をしたりという形を取ってきました。

実績／成果（達成項目、未達成項目など）

○　情報リテラシーの向上

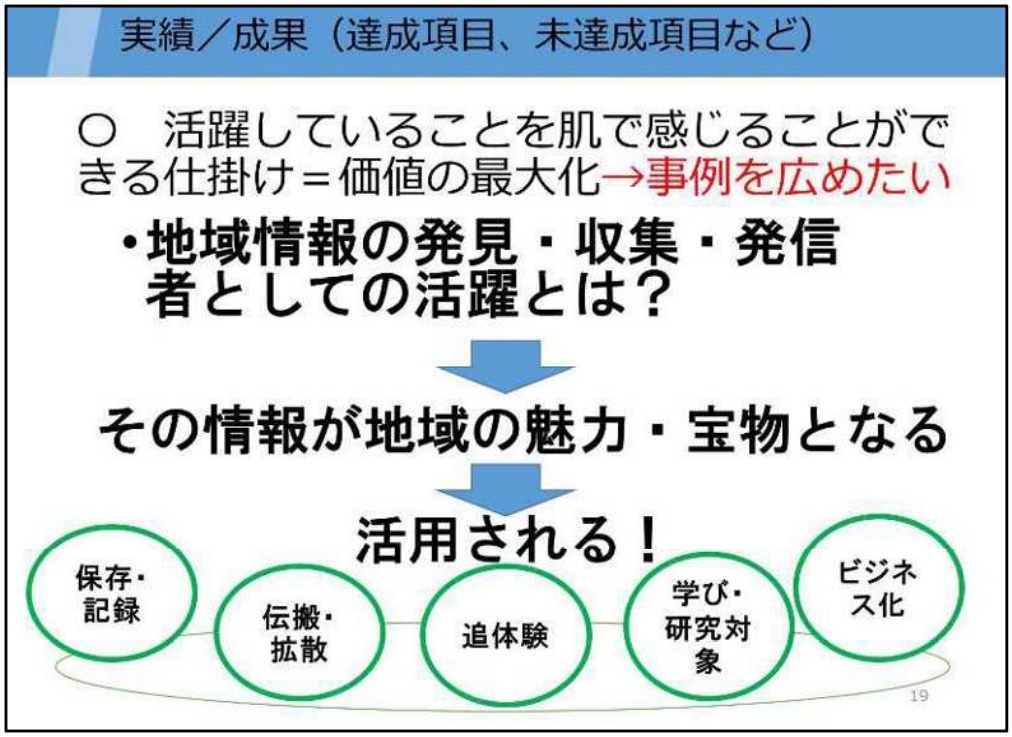
- 自治会長、社協、老人クラブ向け講座を開催し地域全体への広がりなどスキルアップを図った。
- SNS活用講座を開催する。受講生から徐々に広めていっている→数値未把握。
- アンケートにより情報収集等について把握した。PCを活用したい要望に応え講座を開設した。
- NHKと連携し全世帯へ防災アプリの案内を送付し導入を促した。

地域の高齢者サロン・自治会長向け、老人クラブ等スマホ教室開催

防災アプリ全戸へ紹介

18

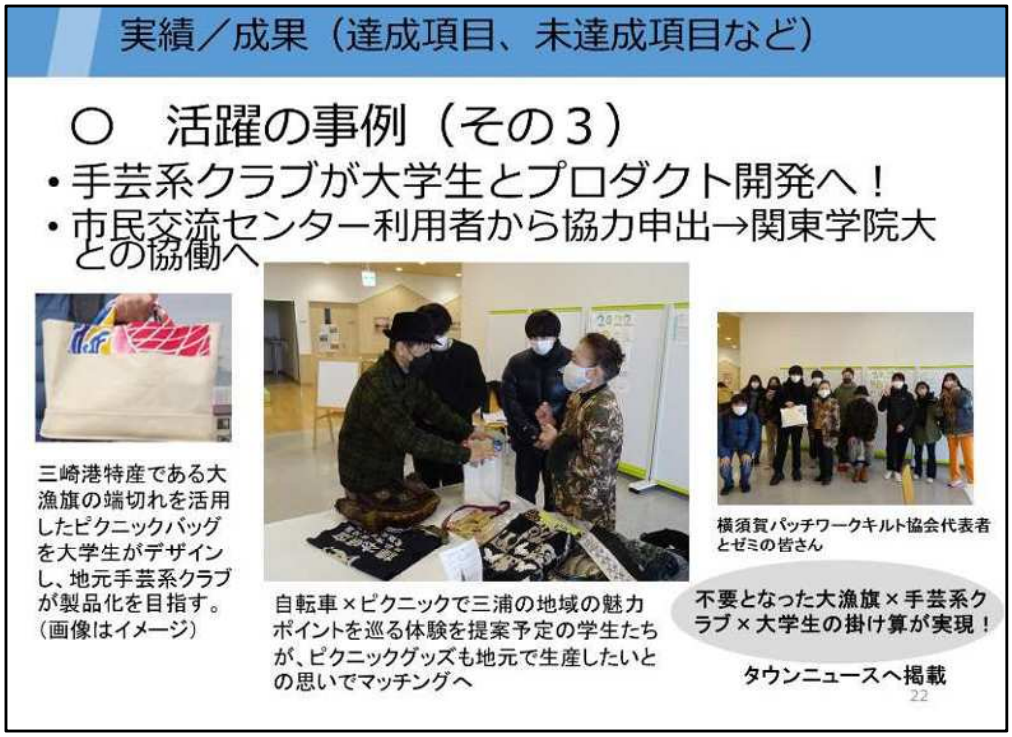
○　情報リテラシーについては、地域の組織の方たちに協力いただいて、実施してきました。



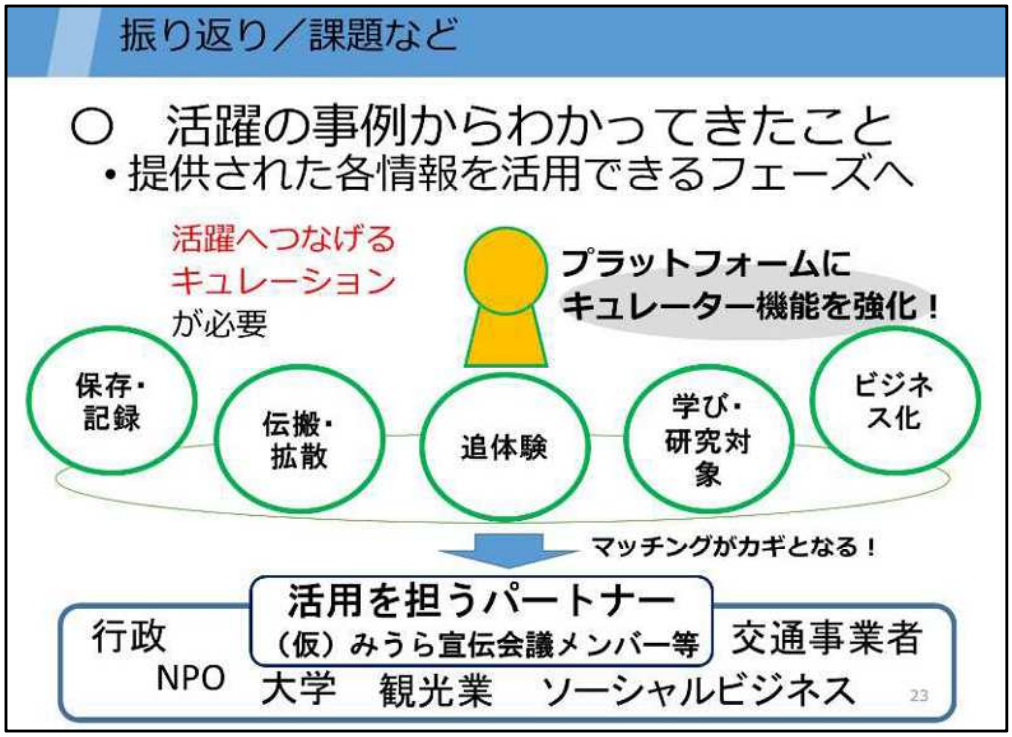
○　こちらの活動で、私たちがニナイテカレッジを通して見えてきたことに、この魅力をこれから自走化していく中で広めていきたいということがあります。この後少し事例を御紹介します。

○　まず一つ、活動を通して今まで実施した未病ウォークも、自治会長の方たちから情報を提供いただいて、社会福祉協議会主催の広報活動、未病ウォークに発展するような形ができてきました。そして、ミニコミ誌や市報に、それが広報されるような形が出ています。

○　もう一つは、三浦の特徴として育てようと、学生たちが関わることで、地域の高齢者サロンの方たちとつながって、新たなレシピ開発で三浦の地域資源のいいところが発見できるような形で、今月もまた集まり、レシピを交換するような活動に発展しています。



○　また、関東学院大学との交流の中では、三浦に余っている大漁旗を使った観光資源とニナイテカレッジに登録している団体が共同して、新たな商品開発を行うようなことにもチャレンジをしています。



○　次に振り返りをして、課題として分かってきたことです。

○　活躍していることを肌で感じる仕掛けとして、いろいろ取り組んできたのですが、実際にこの活動をつなげていく、参加してくださった高齢者の方の背中を押す、コーディネーターやプラットフォームに振られた機能をもう少し強化していくことが必要になっていくことが分かってきました。

振り返り／課題など

自主的な活動がなかなか発展しない。

- 一般的に呼びかけても始まらないと想定し、講座や説明会への参加者から活動者に展開するスキームだった。
- 講座や説明会の受講者はある程度やる気もあり方向性を持っているが、活動はなかなか始まらなかった。
- 原因は特定できていないが、デジタルへのアレルギーと初動期に伴走を求めているためではないかと推測した。
- 対策として、「デジタル系講座のフォローアップ」「発表の足慣らしの場」「仲間集め」等を展開することに。

「丁寧な暮らしの記憶」の価値ポテンシャルは高い。

- 高齢者の貢献は懐疑的な印象を持たれたかもしれない。しかし、事例からも「手仕事・手作り」「家族や近隣者へのやさしさ習慣」「写真撮影などのノウハウ」など宝の山だということがあらためて認識できた。

コンサル、コーディネート、キュレーション、マッチング
が成功のカギではないか！

24

○　参加してくださる方たちは、それぞれのつながりの中でいらっしゃるが、そこから先、自分たちで手を挙げて旗振り上げになってやっていくということがなかなか難しい。
　これは昨年からもいろいろ取り組んでいて、伴走支援をしていく必要があるということで、受講が終わってからの働きかけをやってきています。

○　対策として、赤字で書いていますが、パソコンやＳＮＳの講座の後のフォローアップ、発表の場の足慣らしの場、仲間見つけといった働きかけを行っています。

協業／協働による効果・地域の変化等

市民交流センター・社協・市の連携が実現

- 市民目線でわかりやすく事業に参加してもらうため、既存の市民活動向け事業を再構築し、ノウハウの取得、活動の発表、市民との交流、マッチングを市民大学化した。シームレスで多様な選択ができる学びと発展のプラットフォームが定着化しつつある。（ニナイテカレッジ）

三浦市区長会による写真に特化した事業へ発展

- コロナ禍で若い世代との接点を失った自治会活動を身近に感じさせる機会として写真コンクールを展開中である。

「地域に魅力がある」こと、「市民が活躍できる」ことが地域に徐々にではあるが伝わっているのではないか。

25

○　また、今年２年目になるニナイテカレッジの中では、昨年参加した方と新たに参加してくださった方たちがつながって、それぞれいいところを探すようなことをしたら、たくさん出てきました。

○　これは多世代にわたり、65歳未満の方もサポーターとして関わっているのですがそういう方たちが新たに、高齢者の方たちが行っている体験をとても価値のあるものと評価することで、高齢者の方たちがそのことに価値を見出すということが見えてきました。

○　また、協働効果、地域の変化ですが、調整役に関わっている連携が良い形で進んでいるということがあります。

○　一つには、今年から、老人クラブ連合会の事務局に社会福祉協議会がなったことで、ますますつながりが大きくなりました。
　また、三浦市の区長会は、自分たちで写真コンクールを展開したり、新たな働きかけ、広がりにつながっています。

第３　今後の取組

令和4年11月～令和5年3月

スケジュール（目標等）

○　令和4年度に実現させる項目

プラットフォームを堅牢な体制に

- 高齢者のサードプレイスとして、いつでも立ち寄れて、経験豊富なスタッフがいる。活動している仲間もいて、自由に活動を始め続けることができる場として、周知し利用を促す。またマニュアルを活用し体制を維持する。

参加したいと思える活動へ

- 活動している姿に誇りを感じることができ、成果も地域貢献につながっていく。「地域貢献できる活動」を表現するイメージづくりを行う。

情報の収集・活用を進めるため収集される情報の「知財」としての位置付けの検討

- 現在、情報の収集は進めている。これらの分析や活用について、アドバイザーに意見を聞きつつ体制を整える。

27

○　今後の取組ついてですが、高齢者の方たちのサードプレイスとして、立ち寄れる場の提供、プラットフォームとしての体制に今年度は取り組んでいます。
　その周知を促していくこと、マニュアルを整えていくことを続けています。

○　また、参加したいと思える活動ということで、声かけを続けていきますが、それがきっかけで地域に貢献できるということを皆さんに伝えていきたいと思っています。

○　そのために、アドバイザーに意見を聞きたく、今年中にもアドバイザーの方と集まる予定にしています。

スケジュール（目標等）

○　令和4年度に実現させる項目

活躍の後押し！体験プログラムのアクティビティ化の実証

- 埋もれた地域資源は活用次第では唯一無二の体験となるため、今年度も体験プログラム化を視野に入れキュレーション・マッチング活動を展開する。

さらなる新規グループ育成化等初動活動支援の継続

- グループの活動が活発になると、ノウハウの蓄積やネットワークの構築などが図られ波及効果が期待できるため市民活動のスタートアップ「（仮）三浦で部活動！」を支援する。

継続的な大学・企業CSR等との連携事業の実施

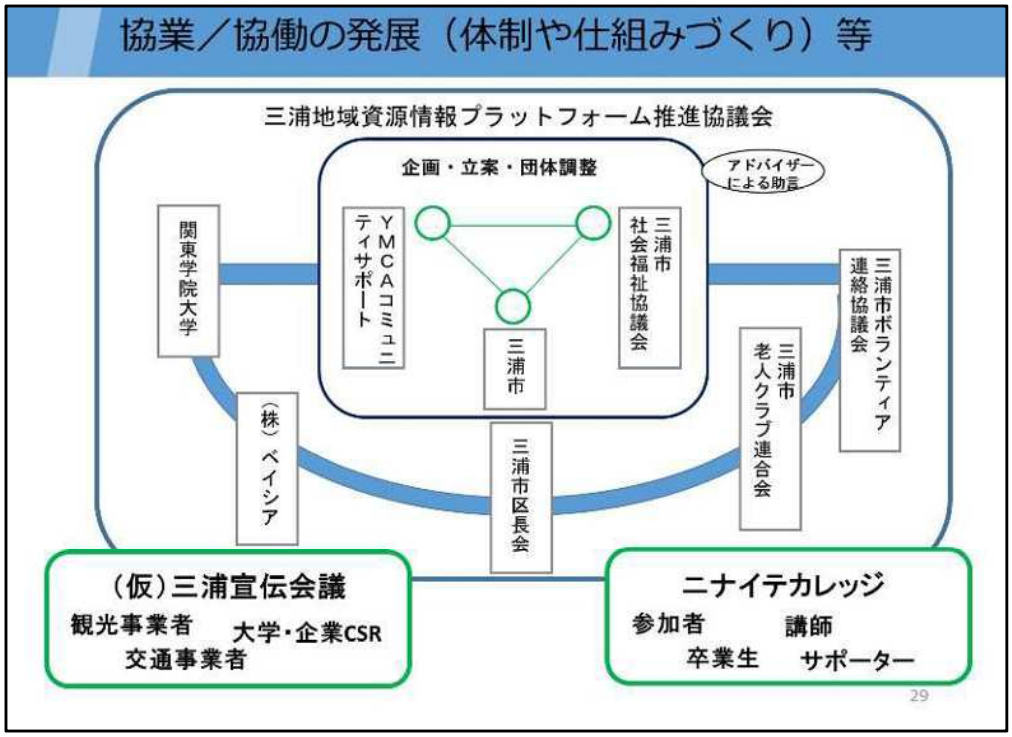
- 本事業として、また、インターシップとして本年も５～6大学の学生を受け入れる。また、デジタルデバイド解消のため、デジタルビジネス企業との協働を実施する。

28

○　そして、活動の後押しということで、いろいろな体験をマッチングするキーパーソンというのが大変重要になりますので、そちらの方の展開をしていきます。

○　また、今、２～３の新しいグループが集まって活動を始めていたり、団体を立ち上げたりということが見えてきています。
　そういったことを「部活動」と呼んでいますが、そういったものがいくつかでき、そして、アドバイザーやニナイテカレッジの講師の方が、顧問のような形で関わることで、ノウハウを蓄積することを考えています。

○　また、継続的な大学や企業のＣＳＲとの連携ということで、インターンシップの方が関わってくださったり、企業の方が講座の企画を一緒に考えてくださったりという形になっています。



○　今後ですが、最初に話をした企画立案の３者、そして協働につながっているメンバーとの体制は、このままいい形で進めていけるのではないかと考えています。

○　それに加えて、ニナイテカレッジに関わった参加者や講師の方たち、これから関わる人たち、そして今までお世話になっている連携の各セクターの方たちと、今考えている三浦宣伝会議というような発信のプラットフォームを作っていきたいと考えています。

持続可能な地域社会に向け、地域の強みや生じた課題の対応

自治会加入率の高さとネットワーク力

- 約95%の自治会加入率と54区のネットワークが存在する。しかし、役員不足等将来の自治会運営は不安が山積されている。地域の魅力の共有は自治会運営にプラスだ。

老人クラブの運営が社会福祉協議会へ

- 令和4年度から「老人クラブ連合会」の事務局が社協へと変更となった。このため高齢者とのコミュニケーション環境の向上が図られることに。

一歩目を踏み出せない活動予備軍のサポートが重要

- 意識が向いていても始めることを躊躇する人たちへのサポートが必要。対策としては、事例集、フォローアップ、グループ化支援、伴走型ブログ記者活動などを展開。

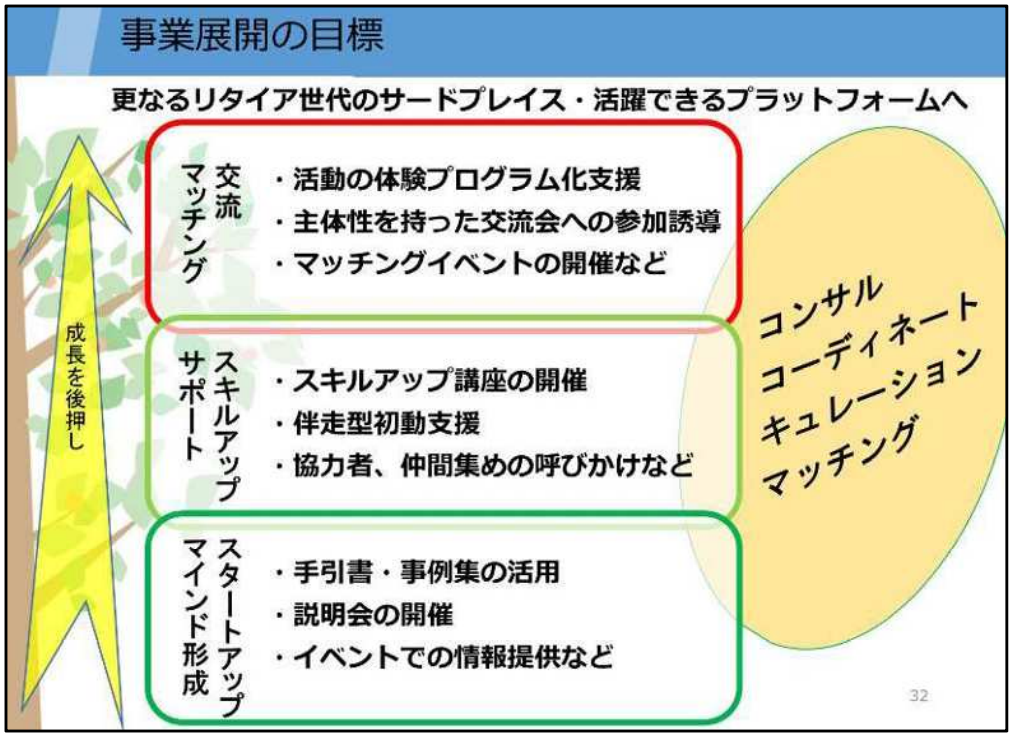
30

○　課題については、三浦市は自治会の加入率が高いので、こちらを生かしていく。老人クラブの運営、社会福祉協議会とのつながりがあるので、これからもコミュニケーションを通じてやっていきたいと考えています。

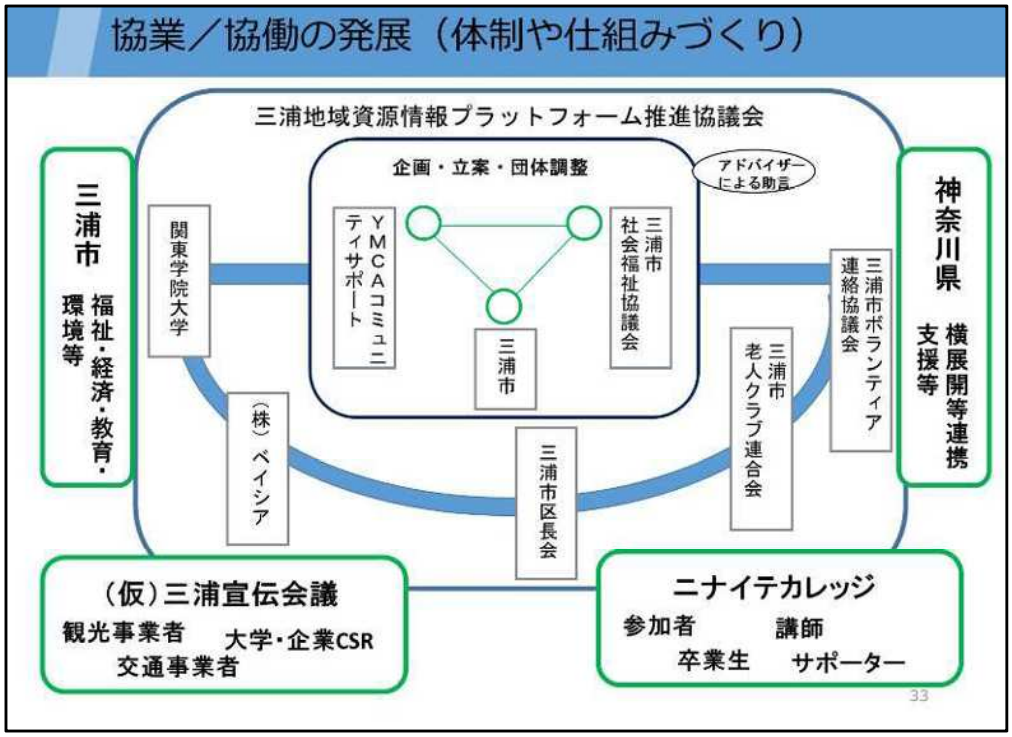
○　また、自分から中心になって何か発信するのではなくて、情報を受けるような、まだ一歩目が踏み出せない方たちの存在を忘れずに、声掛けをしていくような仕組みを作っていきたいです。

第４　今後の取組2

令和5年4月（自走化後）



○　最後に、今後の取組についてですが、これからも最初に作ったスタートアップの手引きを使って、スキルアップの伴走の形、仲間集めといったこと、そこからまた次の体験につながっていくような成長の循環を作っていきたいと考えています。



○　こちらが最終的な仕組みということで、つながっているものそれぞれの連携と、今、三浦市の中でも各部局との協力関係ができてきていますし、神奈川県の皆様からも毎回アドバイスをいただいて協力をいただいていますので、引き続きつながりを作っていただきたいと思っています。

ご清聴ありがとう
ございました。

４（三浦地域）プレゼン後の質疑応答

（１）活躍しているリタイア高齢者の暮らしの例
（２）リタイア後の男性のつなげ方について
（３）関東学院大学との連携及び成果について
（４）自主的な活動の促進について
（５）持続可能な地域社会に向けて

４（三浦地域）プレゼン後の質疑応答

(1)　活躍しているリタイア高齢者の暮らしの例

Q1
当初の事業としては、活躍の場を見いだせないリタイア後の高齢者が対象ということだが、逆に活躍しているリタイア後の高齢者の情報が役に立つのではないかと考えると、活躍しているリタイア高齢者の暮らしの典型例を教えていただきたい。

A1
・最初に作成した、「地域の魅力集め方ハンドブック」の中で、地元で様々に活動している方々を紹介している。
・加えて、この事業に関わっている方々、講師として参加する方や、私たちがフィールドワークとして訪ねるそれぞれの地域で、まちづくり、健康、未病などに関わっている方々と出会うようなことができている。

4（三浦地域）プレゼン後の質疑応答

(2)　リタイア後の男性のつなげ方について

Q2
リタイア後の男性をつなげていくことを狙いとしていたが、なかなか難しいと思われる中、どういう課題があると今認識しているか。

A2
・きっかけがなかなかないということがあり、セミナーのような形だと参加しやすいと感じている。
・実際にニナイテカレッジの参加者を見ると、平均年齢80歳ぐらいで、男女は半々である。当初は女性が多い前提で課題設定していたが、今は男性高齢者、一人暮らしの方、リタイアして移住してきた方も多く参加している。

4（三浦地域）プレゼン後の質疑応答

(3)　関東学院大学との連携及び成果について

Q3
関東学院大学との連携においてゼミ生が関わっているという話もあったが、どういう成果が得られているのか、もう少し教えてほしい。

A3
・日高先生のゼミは、特にモビリティで点と点を結びつけるということと、地域の魅力に携わっている方を訪問し、魅力の背景等を学生たちとともにどう表現していくか、例えばプラットフォームのプロトタイプを一緒に作成したり、その人が持っている技術的な意見を引き出し、ゼミ生と一緒にわら細工に取り組んだり、稲作の循環をどう見せていくかという研究だったり、それぞれの方のスペシャリティ、得意分野について、学生とそれをどう結びつけていくか、市内にどういう分布があって、どうやって楽しんでいけるかといったところをまとめていただくお願いをしているところである。

4（三浦地域）プレゼン後の質疑応答

(4)　自主的な活動の促進について

Q4
参加はしたものの、その後の自主的な活動に至らないことが、どこでも課題となっているが、１年２年かけても諦めずにアプローチし続けると、何かふときっかけを持って、そこから自主化することがある。
グループができたという話もあったが、その辺りをうまく手を掛けていけている、伴走支援をしているのは、センターの職員なのか。

A4
・伴走支援は、ニナイテカレッジのスタッフ、社会福祉協議会、三浦市市民協働推進課など事業によって異なる。撮影のグループなどは、講師の先生が率先してLINEのグループを作ってくれ、いくつか動いているところである。

4（三浦地域）プレゼン後の質疑応答

(5)　持続可能な地域社会に向けて

Q5-1
続可能な地域社会に向けて、自治会加入率の高さとネットワーク力を生かしていくということだが、「うちの自治会は何人参加で、こんなことをやった。」といった自治会同士の情報共有、「あの自治会がやったのなら、うちもやらないと。」となったりすることはあるか。

A5-1
・三浦市は大きく３つに分かれ、３つに分けた自治会のネットワークがあり、それぞれが大体15、6ぐらいのグループから構成されている。
・コロナ禍になってからは、例えば代表者同士が道端でコミュニケーションを取ったり、ばったり会ってなど、コミュニケーションが伝播するということは非常に多い印象であり、噂話的に広がっているかとは思っている。
・なかなか情報の伝達が難しいため、逆にそういうコミュニケーションをうまく活用できないかとは思っているところである。

4（三浦地域）プレゼン後の質疑応答

(5)　持続可能な地域社会に向けて

Q5-2
現時点で継続が難しい、体制的に無理があるといったことは、あるか。

A5-2
・ニナイテカレッジについては、専門的な講師の方たちを呼んで、多くの講座を実施しているため、今の段階があっての講座と思っている。
・そのため、次年度以降はそう多くはできないと思っているが、逆に、集まってきたグループの方たちが講師になったり、今、実際に新たに団体の活動になり、「部活動」と呼ばれるような団体も立ち上がって、自分たちが会費を集めて活動するような形も出現しているので、その辺をうまくコンバインできればいいと思っている。